

2020年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名： 経済統計学特論	
担当教員名： 富岡淳	
授業科目概要： 経済社会の現象を定量的に分析するための手法を学ぶ。統計学および計量経済学の理論の理解は、実際にデータを用いて応用することで格段に堅固なものとなるため、実習も行う。	
履修上の留意事項： 統計学・計量経済学の理論と実証の両面を自分の中で関連づけながら学習すること。現実社会の現象に関心を持ち、統計的な裏付けのある議論を志向すること。	
教科書・参考書（参考文献）	
書名： 計量経済学の第一歩 著者／編者： 田中隆一 出版社： 有斐閣 出版年： 2015	書名： 例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 [第2版] 著者／編者： 白砂堤津耶 出版社： 日本評論社 出版年： 2007
書名： 44の例題で学ぶ計量経済学 著者／編者： 唐渡広志 出版社： オーム社 出版年： 2013	書名： 統計学 著者／編者： 森棟公夫 他 出版社： 有斐閣 出版年： 2008
書名： データ分析の力 因果関係に迫る思考法 著者／編者： 伊藤公一朗 出版社： 光文社新書 出版年： 2017	書名： Introductory Econometrics, 5 th ed. 著者／編者： Jeffrey M. Wooldridge 出版社： South-Western Cengage Learning 出版年： 2013
評価方法及び判定基準： 授業への参加態度と提出課題の質を総合的に評価する。	
授業目標及び進め方： 統計分析を習得すると、実証性とオリジナリティのある学位論文を執筆しやすくなる。また、企業や官公庁で実務にあたる場合にも、統計リテラシーと実証分析のスキルは大変に有益である。このような長期的便益を意識しつつ、この科目では基本的な概念の理解と分析手法の習得を目指す。 テキストの輪読と問題演習を通して統計学および計量経済学の理論を学ぶ。次に、現実のデータと表計算ソフトExcelないし統計解析ソフトgretlを用いた実習を行う。 教科書は受講者の予備知識と問題関心をふまえて決定する。教員作成資料も利用する。 以下に示す授業内容とスケジュールは、受講者の関心と知識に応じて変更される可能性がある。	

第1回 ～ 第4回	<p>テーマ： 経済データ</p> <p>内 容： データの種類と加工、主な政府統計とその設計、実質と名目、季節調整、寄与度分解、クロス表（ピボットテーブル）</p> <p>教科書／参考書 適宜指定する</p>
第5回 ～ 第8回	<p>テーマ： 記述統計</p> <p>内 容： 集中とばらつきの尺度、偏差値、不平等の尺度、相関係数とその検定</p> <p>教科書／参考書 適宜指定する</p>
第8回 ～ 第11回	<p>テーマ： 回帰分析（1）</p> <p>内 容： 単回帰、推定と仮説検定、重回帰</p> <p>教科書／参考書 適宜指定する</p>
第12回 ～ 第15回	<p>テーマ： 回帰分析（2）</p> <p>内 容： ダミー変数、内生性、政策評価</p> <p>教科書／参考書 適宜指定する</p>